

ART AND THE CITIES

この度、あいちトリエンナーレ会場の一つ、長者町エリアにある AT カフェにて「Art and the Cities アート、オルタナティブな視座」をテーマにトークイベントを開催します。

横浜トリエンナーレ、越後妻有大地の芸術祭、瀬戸内国際芸術祭、そしてこのあいちトリエンナーレなど、日本でも大型展が沢山開催されるようになりました。それぞれの地域の人々にとって、同時代の表現に触れられるのはすばらしい事です。

しかし、一つの現実には様々な視点を持ってアプローチする事を促さずのアートのイベントの成功や失敗を「何人来たか」とか「いくら儲かったか」という観点からの判断できないとすれば、それはとても残念な事です。

大事な事なので言い方も変えらばもう一度書きますが、アートは「人を沢山呼ぶもの」や「お金になるもの」である前に、「世界をみる様々な視点を与えるもの」です。それはわかりやすい解釈で収集していく世界の見え方や捉え方に対して、その本来の多様性を見つめるオルタナティブな視座とも言えるでしょう。

今回のトークでは、アートが本来持っているはずのそうした機能について個々の実践や体験の中から語り、共に考えていきます。

そして、そこで共有されるであろう何かは、スピーカー、参加者それぞれの世界にさらに多くの視点を付け足す事になるでしょう。

山本高之

—アート、オルタナティブな視座—

雨森信 × 杉田敦 × MUZZ × 毛利嘉孝 × 山本高之

2010年10月16日 [土] 18:30—20:30

会場 あいちトリエンナーレ ATカフェ B1F 参加費 無料

主催：art & river bank, MUZZ 協力：女子美術大学 大学院 GP

パネリストプロフィール

雨森 信 | Nobu AMENOMORI

インディペンデントキュレーター／remo [NPO 法人記録と表現とメディアのための組織] 理事。2002年 remo を立ち上げ、企画、運営に携わる。2003年よりプレーカープロジェクトを企画、実施。実践を通して「芸術と社会の生きた関係」を再構成することを目指し、パブリックなアートを探索する。

高橋耕平 | Kohei TAKAHASHI

1977年生まれ。美術作家。京都精華大学大学院芸術研究科修了。展覧会に「WORM HOLE episode5, Takuma ISHIKAWA+Kohei TAKAHASHI」／magical artroom、「吉原治良賞記念アートプロジェクト2008-3つの共有計画」／大阪府立現代美術センターサテライト studio など、現在関西を拠点に活動。また京都市立芸術大学、京都精華大学などで非常勤講師として勤める。展覧会企画や自主スペースを運営する組織 MUZZのメンバー。

池田和正 | Kazumasa IKEDA

1978年生まれ。京都市立芸術大学大学院美術研究科修了。京都精華大学職員。展覧会企画や自主スペースを運営する組織 MUZZ メンバー。2002年にMUZZを立ち上げ、主に 展覧会の企画を務める。2003年よりオルタナティブ・スペース MUZZ PROGRAM SPACE (マズ プログラムスペース) を運営。

毛利嘉孝 | Yoshitaka MOURI

1963年生まれ。社会学者。東京芸術大学大学院音楽研究科准教授。NPO法人アート・インスティテュート北九州理事。京都市立経済学部経済学科卒業。広告会社勤務の後、ロンドン大学ゴールドスミス・カレッジに留学。音楽や美術などの現代文化やメディア、社会運動を中心に研究と評論を実践する。著作に「はじめてのDIY—何でもお金で買えると思うなよ!」、「ストリートの思想—転換期としての1990年代」など。

杉田 敦 | Atsushi SUGITA

1957年生まれ。美術批評。女子美術大学芸術学部美術学科芸術表象専攻教授。名古屋大学理学部物理科卒業。現代美術と哲学、科学、メディアの関係について論じる。オルタナティブ・スペース art & river bank の運営も行っている。著書・編著に「ナノ・ソート—現代美学…あるいは現代美術で考察すること」、「アートで生きる」など。

山本高之 | Takayuki YAMAMOTO

1974年生まれ。美術作家。Chelsea College of Art and Design 大学院修了後、アーティストとして国際的に活躍。子供が交わす会話や彼らの遊びに潜む創造的な感性を通じて、人間を育む 社会の制度や慣習などの特殊性をシニカルに描き出すプロジェクトで知られる。